

# 年賀状の数，郵便物の数

■グラフで見る世界258

竹田かずき 東京・ウェブデザイナー



みなさんは、年末年始に年賀状を出しますか？

私は学生時代はよく出していたのですが、社会人になって忙しくなったこともあり、あまりたくさんは出さなくなりました。とはいえ、もらえると嬉しいので、細々と続けていたりもします。私の家族も、父母は変わらずに出していますが、兄はもう何年も前から「出しても、1通か2通」という状態だそうです。

最近、携帯電話やパソコンの普及もあり、年賀ハガキの代わりに、「あけましておめでとうメール」をする人もいます。そのためか、近年は日本郵政株式会社（旧・郵政公社）がテレビCMなどで「年賀状を出してね」というアピールをさかんにしているようにも思います。しかし、実際はどうなのだろう。減ってきているのかなあ。——最近、そんなことが気になって、少し調べてみることにしました。よろしければ、おつきあいください。

## ●通常郵便と比べると？

「年賀状」は、専用の〈年賀ハガキ〉だけでなく、ハガキに赤字で「年賀」と書いてあれば、普通の郵便とは別にして新年に配ってくれます。そこが普通の郵便と区別されるところでしょう。

もし、この年賀状の絶対量が減っていたとしても、郵便の総量も減っていたとしたら、それは郵便物全体が減少傾向にあるということになります。そこで、まず「通常郵便」の総量のうち、年賀状の占める割合を調べてみることにします。

\*「通常郵便」とは、普通通常郵便（ハガキ・封書）と特殊通常郵便（速達や配達記録郵便）などを合わせたものです。いわゆる小包（ゆうメール・ゆうパックなど）は、含まれません。

〔問題1〕 国内宛の通常郵便物は、1年間でどれだけあると思いますか。2008年のデータ（出典：「日本郵政公社の統計データ」日本郵政www.japanpost.jp/toukei/）で調べることにします。

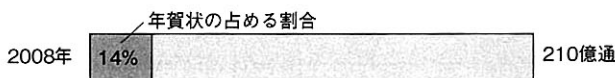
- ア. 1億通くらい。
- イ. 10億通くらい。
- ウ. 100億通以上。

2008年の国内宛の通常郵便は、210億通です。日本の人口は1.2億人くらいですから、「一人当たり200通くらい」といえるようです。しかし、個人で200通も出すのはずいぶん多い気がします。この数値は、企業からのダイレクトメールや、企業間の郵便のやり取りなども含まれるのでしょう。多くの人にとっては、「出す郵便数は200通もないけど、もらう郵便数は100～200通くらい」という感じではないでしょうか。

〔問題2〕 それでは、その210億通の中で、年賀状の占める割合はどの程度だと思いますか。

- ア. 半分くらい。(100億通くらい)
- イ. 4分の1くらい。(50億通くらい)
- ウ. 10分の1くらい。(20億通くらい)
- エ. もっと少ない。

次のグラフをご覧ください。



年賀状の占める割合は、14%です。数にすると29億通です。これを多いと感じるでしょうか、それとも少ないと感じるでしょうか。

### ●この10年ほどの年賀状の割合は？

この「14%」が、私にはいまいちピンと来ませんでした。そこで、〈この10年ほどで、この数字がどれほど変わったか、それとも変わらなかったか〉を見てみようと思います。

〔問題3〕 今から10年ほど前の1997年は、年賀状の割合はどれくらいだったと思いますか。

- ア. 今より多かった。(20%以上)
- イ. 今とあまり変わらない。(14%前後)
- ウ. 今より少なかった。(10%以下)

次のグラフをご覧ください。この10年間ほどの〈国内宛の通常郵便の数〉と〈その中に占める年賀状の割合〉を表した量率グラフです（タテの幅と面積は通常郵便の総数によって変わります）。

	年賀状の占める割合	総数
1997年	15%	250億通
1998年	14%	250億通
1999年	14%	260億通
2000年	14%	260億通
2001年	13%	260億通
2002年	13%	260億通
2003年	14%	250億通
2004年	14%	230億通
2005年	14%	230億通
2006年	14%	220億通
2007年	14%	220億通
2008年	14%	210億通

1997年の〈国内宛の通常郵便〉の中で年賀状の占める割合は、15%でした。2008年とさほど変わっていません。「年賀状は近年になって大幅に減ってるのかな～」と思っていたので、この結果は意外でした。少なくともこの10年は、とても安定した割合を占めているようにしかみえないからです。

ただ、通常郵便の総数は250億通でしたので、この10年でかなり減ったのです。それにもなって、年賀状の実数も、37億通から29億通へと、8億通減っています。

## ●年賀状の始まりは？

ところで、そもそも年賀状はいつから始まったのでしょうか。年賀状をだす習慣自体は、ずいぶん昔からあるように思えます（調べてみると、平安時代の年賀状の例文というものも残っているということがわかりました）。そこで「明治以降、年賀状を普通の郵便とは別の枠で受け付け、新年以降に配達し始めたのはいつか？」を予想することにします。

〔問題4〕 それはいつ頃のことだと思いますか？

ア. 明治時代／イ. 大正～戦前／ウ. 太平洋戦争終結後

年賀状の特別取扱を開始したのは、1899（明治32）年のことだそうです（郵政省郵務局郵便事業史編纂室編『郵便創業120年の歴史』ぎょうせい）。ただし、一部の郵便局のみでの取り扱いでしたし、現在のような専用の〈年賀ハガキ〉などはありませんでした。それでも〈これが始まり〉といえそうです。

1905（明治38）年には、全国の郵便局で年賀状を特別に取り扱うようになりました。その後、第二次大戦中に中止されたりしたもの、戦後に再開されました。現在のような〈お年玉付年賀ハガキ〉が発行されるようになったのは1949（昭和24）年です。

私は、「年賀状の特別扱いは、もしかして意外と最近はじまっ

たのではないか」とも思っていたので、明治時代と知って驚きました。年末年始のハガキのやり取りは、100年の歴史があるのか～！ そう思うと、なんだか不思議な気持ちになってきます。

## ●昭和初期の〈年賀状〉の割合

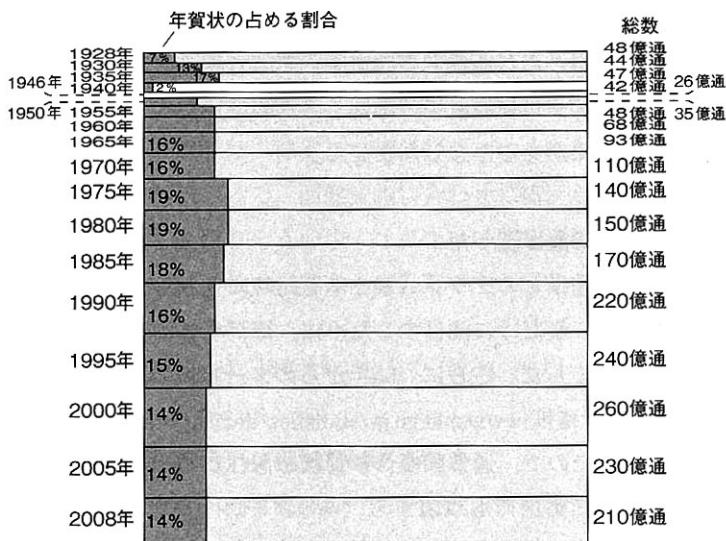
ところで、さらに調べていくと、『郵便の統計（平成9年度）』（郵政省）に1928（昭和3）年からの通常郵便の総数と年賀状のデータがあるのを見つけました。そこで、今から80年前の年賀状の姿を考えてみたいと思います。

【問題5】 今から80年ほど前の1928年には、年賀状の割合はどれくらいだったと思いますか。

- ア. 今より多かった。（20%以上）
- イ. 今とあまり変わらない。（14%前後）
- ウ. 今より少なかった。（10%以下）

次のページのグラフをご覧ください。1928年の年賀状の割合は7%でした。しかし、5年ごとのデータでこの80年を見ると、だいたい、10～20%の間で、激しい変化はないようです。

ここまで調べてきて、私は〈年賀状の割合〉より、〈通常郵便の総数〉の方が気になってきました。太平洋戦争直後の1946年や1950年は、通常郵便数自体が激減している（幅がせまい）ではないですか！ おそらくこれは、戦争の影響なのでしょう（1940年は、日中戦争による自粛のためか年賀状の割合も少なくなっています）。1940年末から1947年までは、年賀郵便の取り扱いも中止し



ています。

また、このグラフを私の母（竹田美紀子／愛知・大学院生）に見せると、〈人口と通常郵便数〉をととても気にしていました。母は「1975年には、日本の人口は1.1億人だったはず。そのころ郵便の数が140億通なのに、2000年は260億通になってる。ほぼ倍ではないか！ でも、人口はそう大きく変わっていない。なぜこんなに郵便数が増えたのだろう……」と言うのです。そう言われて、私は初めてそのことに気づきました。

また、通常郵便総数のピークは2000年頃で、それまではだいたい増えつづけています。なぜ、増えつづけてきた郵便総数が、この10年は減少に転じたのでしょうか。そういえば、ヤマト運輸や佐川急便が〈メール便〉という〈郵便と同じように小さな荷物

を、安価で各家庭へ配送する」というシステムが注目され始めた時期が、そのころだったと思います。調べてみると、ヤマト運輸がクロネコメール便の取扱いをはじめたのは1997年のことです。これは、関係があるかもしれません。

## ●こんなに印象が違った！

そこで、先ほどのグラフ（量と率を同時に見るという〈量率グラフ〉）を、量だけに注目するために、棒グラフに描き直してみることになりました。さらに、03年からのメール便の量の統計（「国土交通省統計情報」[www.mlit.go.jp/statistics/details/jidosha\\_list.html](http://www.mlit.go.jp/statistics/details/jidosha_list.html)）が入手できたので、通常郵便（年賀状を含む）の上に乗せてみました。また、郵便でも以前から〈ゆうメール（旧冊子小包／旧書籍・カタログ小包）〉というサービスがあるので、その数も追加してみました。ゆうメールは、「冊子やCD、DVDを安く送れる」というものです（小包扱いで通常郵便物ではありません）。

裏表紙のグラフをご覧ください。いかがでしょうか。私は、このグラフを描いて、いろいろ驚いてしまいました。

まず、通常郵便の数は、2002年頃からは目に見えて減少しています。しかし、各社のメール便やゆうメールを乗せてみると、だいたい横ばいです。減ったところにかぶさるようになっていないですか。合わせると面白いです（ゆうメールの前身の書籍小包は、1966年から始まったため、それ以前はデータはありません）。

また、〈各社のメール便の数〉と〈年賀状の数〉は同じくらいです。こう比べると年賀状の多さを感じます。

そして、なにより、同じデータから描き起こしたグラフでも、



〈量率グラフ〉と〈棒グラフ〉では、とても印象が違うことにびっくりしました。戦後の郵便数の量の違いは、量率グラフでも見ましたが、こんなに顕著とは思いませんでした。しかし、逆に〈年賀状の割合〉は、棒グラフでは分かりにくくなっています。グラフって面白いけど、問題意識に合わせて描かないと、見えるものも見えなくなりそうです。「グラフは問題意識に合わせて書け」というのは、板倉聖宣さんの言葉ですが、まさにその通りだなあと強く感じました。

\*板倉聖宣「グラフは〔問題意識に応じて〕好きに書け」『たのしい授業』No.337 (08年5月号)

### ● 〈年賀状の割合〉に地域差はあるのか

ところで最近、通常郵便のうち年賀状の占める割合は、14%でした。それでは、その割合に地域差はあると思いますか？

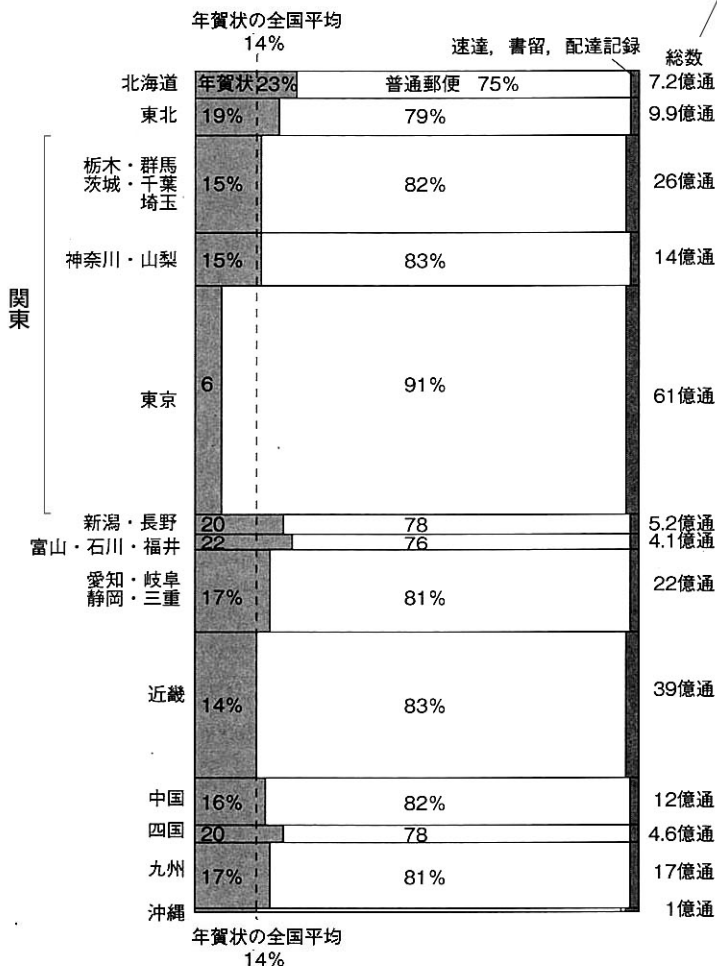
最初の問題の後、私は「郵便の総数の中には、企業からのダイレクトメールや、企業間のやり取りなども含まれるでしょう」と書きました。実際、私が受け取る郵便の半数以上は、企業からのものだからです。しかし、そうなると東京など〈企業が多くある地域〉は、ダイレクトメールが盛んな分、年賀状の割合が低く、〈企業があまりない地域〉ではダイレクトメールがあまりなく、年賀状の割合が高いように思えます。さて、実際はどうでしょうか。

〔問題6〕 2006年現在で、通常郵便のうちの年賀状の占める割合を地域ごとに見た場合、その地域によって違いがあると思いますか。〈差出人が郵便を出した地域〉で見るとどうでしょう。

ア. 地域差がある。 / イ. 地域差はない。

地域ごとの総数を  
タテ幅にした  
量率グラフ

地域ごとの年賀状の割合は、次のとおりです。



見事に、東京の〈年賀状の割合〉は低いのです。しかも、人口だけ見れば、東京の人口は日本の総人口の10分の1ですが、通常

郵便の差し出し件数は、日本全国の4分の1以上を占めています。私はこれほど多いとは思わなかったので、グラフを描きながら、とても驚いてしまいました。

なお、速達・書留・配達記録などの割合は、どの地域も2～3%程度です。これは、企業・個人を問わず、似たような頻度で扱われるものなのでしょう。

このグラフを描き、企業の多い地域・少ない地域の差異などを考えると「企業用の郵便がなかったら、〈年賀状の割合〉は14%ほどではなく、きっともっと多いのだろう」とも思えてきました。もしかしたら、20～30%くらいをイメージする方が正確なのかもしれません。

先に私は、「14%という数字がピンとこない」と書きましたが、よく考えてみれば、〈1年間の通常郵便総数の10分の1以上が、お正月の1週間ほどで届く〉のですから、それはとてもすごいことなのかもしれません。

年賀状の数、郵便物の数の話、いかがでしたか。郵便はとても身近なものですが、こうして調べてみると「こんな歴史があったのか～」と驚くことが多く、新鮮でした。

今は、郵便以外にも、電話やEメールなど色んな情報通信手段があります。郵便や年賀状は、今後どのような形になっていくのでしょうか。10年後のグラフは、変わるのか変わらないのか、楽しみです。

(2009.2.6)

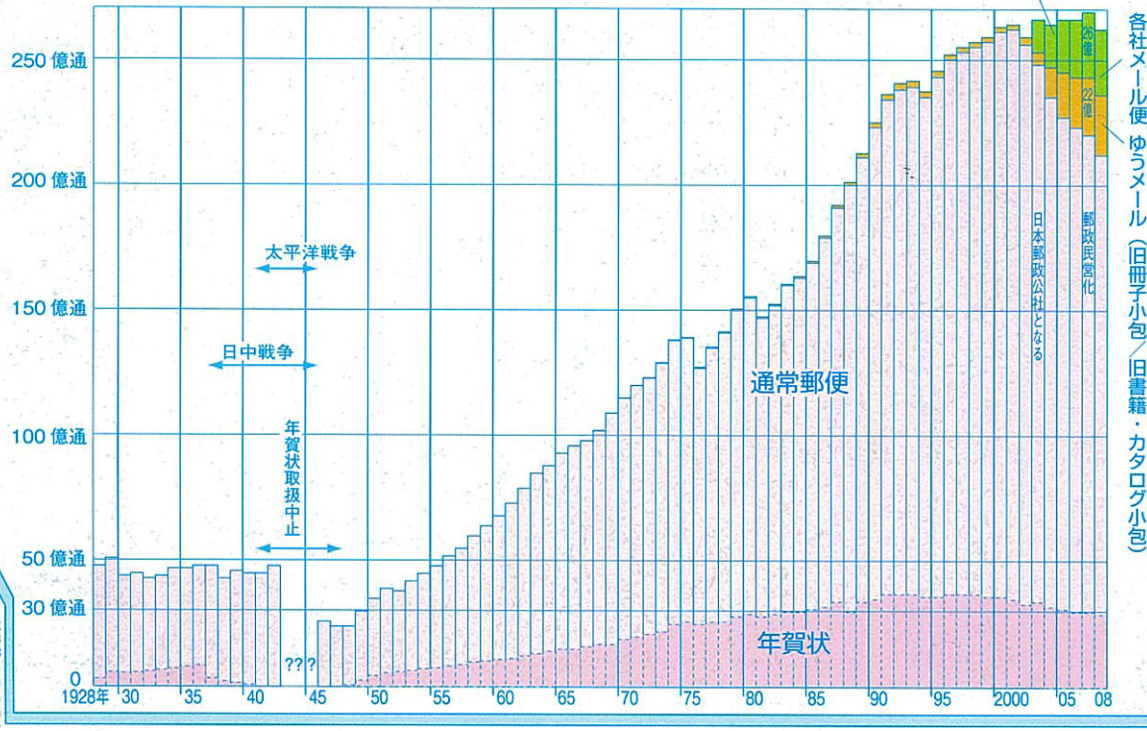
グラフで見る世界—258

通常郵便と年賀状の数

最近、パソコンや携帯メールで新年の挨拶ができるサービスもできました。では、ハガキの年賀状は減ってきているのでしょうか。「通常郵便」（いわゆる小包を除いた郵便物）は、2003年以降、減少傾向にあります。しかし、各社のメール便やゆうメール（旧冊子小包）の量が増えてきています。91ページ参照。

©Takeda Kazuki, 2009

クロネコメール便コンビニで取扱開始



4910060911290  
00705

雑誌06091-12  
定価740円 本体705円